

1. 事業の概要

1. 事業の概要

(1) 事業の目的

人口減少と高齢化が進む我が国の食料消費は、既に飽和状態にあることから、今後の食品産業と農水産業の発展にとって機能性に着目した商品の開発・販売が極めて重要と考えられるが、これに対応できるのは概して技術力・資本力に勝る大手食品企業であり、また、これら企業は大量販売を基本としていることから、原料手当を海外に依存することが多くなっている。

一方、我が国の中小食品企業は、伝統的に地域の農水産業と深く結びついてきたが、概して資本力・市場開拓等において後塵を拝することが多く、地域農水産物が地場市場を喪失する傾向にある。

そこで、地域農水産物の有する機能性に着目した食品を地域の食品企業が市場化することを支援し、食品開発状況の調査・分析、機能性成分についての検討を行うとともに試作品の開発・試食評価を行うことにより、地域の食品企業の振興と地域農水産業の進展を図ることを目的とする。

(2) 事業の内容

学識経験者、試験研究機関、食品企業及び消費者団体等の分野を代表する委員により構成される検討委員会を設置し、以下の検討を行った。

① 機能性成分・活用性等調査

地域農水産物に含まれる機能性成分の活用方法、食品加工に利用する上での留意点等を整理し、今後の地域農水産物を使った機能性に着目した食品の市場化への参考とするため、今年度は、「各種機能性成分を有した国産農産物」として、「国産カンキツ類」について、以下の内容で専門家にわかりやすくまとめていただいた。

「ウンシュウミカンについて」

(果樹研究所 カンキツ研究興津拠点 生駒吉識氏 他)

「地方特産のカンキツ類について」

(高知県農業技術センター果樹試験場 田中満稔氏 他)

「果樹研究所育成カンキツ類」

(果樹研究所 カンキツ研究興津拠点 吉岡照高氏 他)

② 機能性に着目した商品の試作、市場性等評価

- i) 過去に調査した食品関係試験研究機関・企業の中から、機能性に着目した商品開発について試作協力先となることを希望するとした組織を対象に、応募内容を審査の上、対象案件を決定した。

- ii) 提案に基づき、試作協力先が試作品の開発を行った。
- iii) 試作品完成後、一般パネラーを加えて試食評価を行った。
- iv) 商品化に向けた改良に向けて、試食評価を試作協力先にフィードバックし今後の開発の参考とした。

(3) 検討委員会の構成

平成21年度農水産物機能性活用推進事業検討委員会は以下の委員で構成した。

[委員名簿]

(五十音順 敬称略)

氏名	所属・役職
石川(高野)祐子	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 食品機能研究領域 機能性成分解析ユニット ユニット長
門間 裕	社団法人 日本アグリビジネスセンター 常務理事
鎌田 克幸	学校法人 日本菓子学園 専修学校 日本菓子専門学校 教育局 局長
小林 昭一 (※)	社団法人 菓子・食品新素材技術センター 理事長
関根 啓子	東京都消費者月間実行委員会 事務局長
高橋 幸資	国立大学法人 東京農工大学 共生科学技術研究院 教授
廣瀬 理恵子	財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター 食品技術センター 主任研究員
三國 克彦	塩水港精糖株式会社 糖質研究所 商品企画開発室 室長
宮川 早苗	UBMメディア株式会社 「食品と開発」 編集長
山田 雄司	山崎製パン株式会社 中央研究所 所長

(※) 座長